

「著作権教育」としての学習内容

他人の著作権を意識する

「著作権教育」の学習のねらい

創作作品の質を向上させていくには、模倣することの大切さを知る。

- 他人の作品を模倣することは、創作の第一歩であることを意識させる。
- 模倣する過程で、創作活動にとって何を学ぶのかを意識させる。
- 模倣には、許される範囲と許されない範囲があることを理解させる。

生徒の活動

- 著名作品を模倣して（お手本にしてみねる）、同じ作品を作る。
- 模倣する行為（絵画の模写や題材としての演奏）の例を調べる。
- 過去の卒業生や在校生の先輩などの作品と同じものを作る（お手本にしてみねる）。

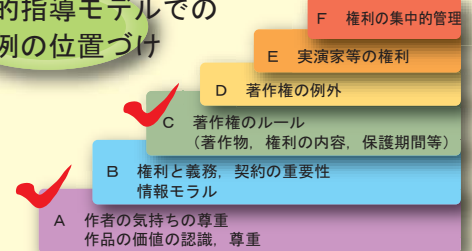
「著作権教育」の指導のポイント

- 偉大な作品を残した作者も誰かの弟子であったり、誰かの影響があったりすることを理解させる。
- なぜまねするのかを考えさせる（歴史や形式を知ること、テクニックを身につけること）。
- 漫然と模倣に取り組ませるのではなく、どの部分が特徴的かを抽出させる。

これだけは！ 押さえない指導内容

- 学校でお手本を元に学習することの意義、著作権の及ぶ範囲、例外規定などを指導する。
- 著作権の目的には、文化的発展を願っている思想があることを理解させる。
- 模倣した作品は、自分の上達のためであり、この作品を外部に発表することはできない。

段階的指導モデルでの 本事例の位置づけ



具体的な展開例

創作する作品の質が向上するためには模倣が大切な活動であることについて、次のようなポイントを話し合う。

- 世の中の作品は、過去の別の作品の影響を受ける（どこか似てしまう）。
- 流行に合わせることで目に留まりやすくなり、師匠の影響を受けていたりするなど、原因はさまざまである。誰もが最初から完全にオリジナルの作品を作れるわけではないことを知る
- すでに存在する作品をまねして作ってみることで、その考え方や技術を自分に蓄積するプロセスは重要である。
- 学校は『学ぶ場』である。他人の作品の模倣を通して知識や技術を学ぶことが許されている。
 - ➔ 学校における教育現場では「模倣」は大切な教育活動である。しかし、「模倣」しようとする品の著作権を保護する考え方を指導することが重要である。
 - ➔ 著作物には創造性が不可欠である。



この事例の実践に参考となる教材・資料

一般社団法人日本音楽著作権協会

「著作権制度の概要」（教員が知っておきたい著作権の知識）

http://www.jasrac.or.jp/seminar/pdf/index_pdf003.pdf

